



IFALPA ATS Committee Meeting 出席報告

2007年11月7日～9日、IFALPA ATS Committee Meeting がアルゼンチン・ブエノスアイレスで開催され、今回は12カ国の代表と管制官の世界組織であるIFATCAのObserverや、ICAO関係者を招き、参加総数22名、日本からはALPA Japan ATS委員1名が出席しました。このミーティングでは主に以下のような内容が報告、及び討議されました。

中国のRVSMに関して

2007年9月18～21日北京で行われた中国RVSMに関する会議の報告がありました。IFALPAは関係メンバーで討議をした結果、2007年11月21日1600UTCから始まる中国RVSMに対して同意を表明しました。その上で、IFALPAは中国のRVSMの施行状況を見守っていく所存です。最近の中国ではEnroute上レーダー管制下で右1-2nmのOffset指示が恒常的に行われています。これはノンレーダー空域でのStrategic Lateral Offset Procedure (SLOP)とは違うものなので、ATCからの指示に従わないエアラインもあります。この件に関してどのように取り扱うかは現在討議中です。

AKARA-FUKUE CORRIDORに関する状況報告 (ALPA Japan)

ALPA Japanの日本の航空局に対する要望活動が実を結び、福江と上海を結ぶ経路の高度選択が変更されることになりました。これは、中国RVSM導入に伴い約24年ぶりに高度選択に関して変更が加えられ、一部運用も改善されたものです。関係3国の航空局、IATA、IFATCAの討議の結果この度の改正が行われたことをALPA Japanとして非常に嬉しく感謝しております。詳しくは別途発行された日乗連ニュースNo.31-T07を参照してください。

ICAOの語学要件に関して

2007年9月6～7日にかけてドイツ、Langenで行われた語学要件に関する会議の報告がありました。ICAOは2008年3月5日に施行しようとしていますが、多くの国やエアラインでは期限までに間に合わぬ模様です。さらに、語学要件に対する訓練、試験等のICAO Document 9835(語学要件に関する刊行物)を満たしていないどころか、存在すら知らない地域もあり、State AIPの中にはICAOの語学要件を必要としないとする国もあります。このような現状に対してIFALPAはさらなる処置の必要性を確認しました。

(次頁に続く)

ADS-B の本格導入について

FAA では 2020 年までにすべての航空機に対して米国内での ADS-B の搭載を義務付ける見込みです。ADS-B 受信機はすでに米国全土での設置が広まりつつあります。ヨーロッパでも現在導入に向けて動いており、IFALPA は ADS-B を次代の監視システムとしてこれを支持しました。IFALPA ATS 委員会では、その使用環境、安全性についてさらに協議をしています。

(注) ADS-B (Automatic Dependant Surveillance-Broadcast) : 航空路監視レーダーに換わりうるシステムの名称。航空機より航法データを ATC Transponder 系統と同じ周波数で送信し、それを地上で受信して処理し管制卓に表示するものです。レーダーより早い周期で画面が更新できることと、広い空域に新たに設置する場合は費用対効果に優れているとされています。

CPDLC における Communication Procedure の統一

現在、CPDLC での用語の使用方法が太平洋と北大西洋で異なります。たとえば STANDBY はこれまで約 15 年間、すぐにはリクエストに対する返答はできないが、10 分以内に返答が用意できる時に使用されてきました。現在、主に北大西洋では何回もリクエストされないように、短時間で返答が用意できる場合でも、まず STANDBY と返答を送ることが多くあります。このことがパイロットに混乱を生じせしめる原因となっている現状があります。IFALPA ATS 委員会ではこのような件に関し、Data Link Procedure Harmonization Project Team を立ち上げ、適切な使用方法とその統一を試みることになり、日本は太平洋担当として参加することになりました。

(注) CPDLC (Controller pilot Data Link Communication) : 管制官とパイロットの間を結ぶデータ通信。

IFALPA ATS 委員会での今後の ALPA Japan の活動

次回 Lisbon、Portugal で行われる会議で日本は PANS-OPS VOL I の再検討を担当することになっています。また Data Link Procedure Harmonization Project Team に日本も参加することにより IFALPA に対してさらなる積極的な活動を行っていきます。さらに AKARA-FUKUE CORRIDOR についても更なる改善を目指し、IFALPA ATS 委員会にて発表していく予定です。

(以上)